

大きなからだ、たくましい筋肉の、力の強そうな男の人がすわっています。  
 いったいこの人はどんな人なのでしょう？ 何をしているのでしょうか？  
 これから少しの間、考えてみることにしましょう。

自由に見て想像してみましよう。

こたえはひとつに決まっています。

この男の人のポーズをよく見て、  
 あてはまる方に印をつけてみましょう。

背中

- かがめている  
伸ばしている

右手

- ほおにあてている  
あごにあてている

左手

- 左ひざにおいている  
右ひざにおいている

顔つきにも注意してみましよう。  
 あなたにはどんなふうに見えますか？  
 あてはまると思うものに印をつけてみましょう。

- 暗く沈んでいる      晴れ晴れとしている  
口をゆがめている      うつろな目をしている  
眉間にしわをよせている

その他 ( )

この人はどんな人に見えますか？

- スポーツマン    哲学者    小説家    農民

その他 ( )

この作品には《考える人》というタイトルが  
 ついています。ロダンが表現した「考える人」は  
 どんなようすに見えますか？

- たくましい    弱々しい    たよりない    おおげさ

その他 ( )

私たちがふだん考えごとをするときには  
 どんなポーズをとるでしょうか？  
 また、考える人といえどどんな体つきの人を  
 思い浮かべるでしょうか？

( )

あなたが思いえがく「考える人」と  
 ロダンが表現した「考える人」にはちがいがあ  
 るでしょうか？

( )



「考える人」が何を考えこんでいるのか、推理できる鍵を探してみましょう。

ロダンの作品《地獄の門》の中にも、  
《考える人》を見つけることができます。



どこに《考える人》があるか、  
探してみましょう。



### 《地獄の門》について

1880年、ロダンはパリの装飾美術館の扉の製作を依頼されました。その扉になるはずだったのが、この作品です。

当時、ダンテの長編詩『神曲』にえがき出されていた地獄の世界（「地獄篇」）に強く心を動かされていたロダンは、扉にその世界をくり広げようと考え、作品作りに全力を注ぎました。しかし、意欲を傾ければ傾けるほど満足できず、とうとう完成しませんでした。今では開かない扉となって、作品として残されています。

《地獄の門》にえがき出されているのは地獄の中で苦しみもがいている、生々しい人間たちの姿です。

この作品の中で、《考える人》は、苦悩にあえぐ人々を見おろして、孤独な考えごとの世界にひたっているようです。



さて、この《考える人》が考えていることは、  
いったいどんなことなのでしょう？  
あなた自身の思ったこと、気づいたことを書いてみましょう。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



《地獄の門》